



薬師寺小だより

平成28年7月
下野市立
薬師寺小学校長
鈴木一恵

薬小っ子スタンダード
当たり前のことを
当たり前に行ける子に



やさしく

明るい返事
正しい言葉遣い



かしこく

学年×10分
家庭学習の習慣



たくましく

進んで外遊び
体力作り

下野薬師寺歴史館でふるさとを学ぶ

薬師寺小の子供たちは本当に地域に愛されているなあ、「ふるさと学習」に同行して思いました。ボランティアの方の「薬師寺の名前を背負っている学校は君たちだけだから。」という言葉に私自身も重みを感じました。

3・4年生(6/24)、1・2年生(6/30)と一緒に歴史館を訪問しました。6年間を通して郷土を学び、郷土愛を育てていただいています。古代米のお餅つきも先人の思いに心を馳せることのできる印象的な活動です。市職員の方やボランティアさんの心温まる企画に感激しました。歴史館の屋上で薬師寺の紙芝居を見せていただきましたが、キャラクター「古麻呂」くんのお陰でふるさと学習スタートの1年生も親しみをもって見る事ができました。



えごまの苗植え



ベニバナ畑の草取り



薬師寺瓦を発掘



回廊の説明を聞く



「薬師寺」の紙芝居



古代米の餅つき体験

～担任の声～

毎年実施しているふるさと学習を通して、年々子供たちが自分の郷土への愛着を深めていることが分かり、ふるさと学習の意義を感じている。自分の地元を大切に思う心を今後も育てていきたい。

子供は地域を元気にしてくれる

24日、歴代PTA会長さんの会が開催され私も参加させていただきました。和気藹々とした雰囲気の中で当時のお仲間との思い出を語り合えるのは、お一人お一人が学校のために一本の杭となりご尽力されたからこそでしょう。その席でとても良いお話を伺いました。「子供たちの挨拶がとても良くなっています。立哨指導をしていて元気ももらっています。子供は地域を明るくしてくれるからね。」

私も毎朝、校庭に出て子供たちを迎えています。元気な挨拶と笑顔が増えていることを感じていましたので、とても嬉しくなりました。穏やかな校風は、歴代PTA会長様始めPTA活動に携わってくださった多くの方々のお気持ちが現在のPTAにも子供たちにも引き継がれている証です。子供たちが元気な挨拶を通して、地域の皆様への恩返しをしてきているように思います。今後ともどうぞ温かくお見守りいただけますように。

低学年、雨の目にも水をやるわけは？

栽培園には生長する花や野菜が並んでおり、雨上がりの朝には、少々不思議な光景を見かけます。それは、低学年の子供たちの水やりです。「雨が降ったのだから大丈夫なのですよ。」と声を掛ける余地もないくらい一心に水をあげています。



その姿、表情は「自分の植物への愛着」に満ちあふれています。自分＝植物ですから「きれいな朝顔が咲いたね。」と褒められることは自分が褒められたのと同じなのです。つまり、水やりは、植物(自分)と会話をしている時なのです。雨が降っても自分の水でなければだめなのですね。こんな純粋な姿に触れる瞬間、大人も心洗われます。お子さんの心に寄り添うとは、日常のこんな些細な共感の積み重ねが大切なのだらうと思います。

いろいろなご協力本当にありがとうございます

- ♥PTA親子レク、セミナー
- ♥心肺蘇生法
- ♥町探検やふるさと学習のボランティア
- ♥学級文庫
- ♥図書ボランティア
- ♥プール
- ♥安全ボランティア
- ♥掲示物
- ♥学習等

今、子供たちに育てたい力は

「教室はまちがうところだ」
 蒔田晋治 著より

ああじゃなくか
 こうじゃなくか
 みんないかい
 言ひ合うなか
 ほんとうのものを
 見つけていくのだ
 そうしてみんな
 伸びていくのだ

今、本校では子供たちの将来を見据えてこの詩のような授業風景を描きながら学習改善の研究を進めています。この研究を進める背景を知っていただき、是非子供たちにエールを送っていただければと思います。

これからの日本はどう変わっていくのか

専門家によると2030年の日本は、現在の職業の6割がなくなり、今まで想像もしなかったような新たな職業が生まれるとも言われています。この先14年後ということになりますが、現在の1年生も既に成人となっています。正に目の前の子供たちが社会の一員として活躍している時代です。社会がどのように変化するのかだれも的確に説明できることはできませんが、人間の代わりに機械（コンピューター）が仕事を行うことは、尚一層著しくなるであろうと予測できます。

人間にしかできないことは

さて、では、逆に人間にしかできないことはどんなことでしょうか。

人間は課題や問題に気付くしなやかな感性をもっています。さらに、言語を用いて多様な人々と柔軟につながり、知恵を出し合い、互いに支え合いながら生活していく力も備えています。

このような人間にしかできない力を子供のうちから磨いていくことは、これからの社会の変化に対応し、たくましく人生を切り拓いていける人を育てく一助になるのではないかと考えます。



21世紀を担う子供たちに育てたい力は

そのためには、何を知っているか、何ができるかという知識や技能の取得に加えて、知っていることやできることをどう使うかを考え発信することが大切になってきます。

さらに、一人で考えるだけでなく、「三人寄れば文殊の知恵」の諺のように、友だちと一緒に話し合うことで思考の幅が広がることでしょう。小学生の段階から友だちと一緒に課題に気付いたり、自分の考えを伝え合ったり、本気で解決策を考えたりする学びの過程は子供たちの自信を育てることにもなります。

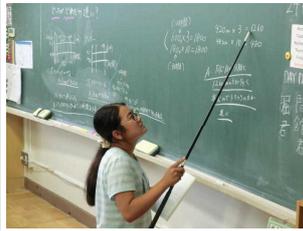
そこで、21世紀を担う子供たちに育てたい力は、「学び合う力」と考え、本校では学年や学習内容に応じて、言葉によるコミュニケーションを活発に行うための活動を学習に取り入れていきたいと思っています。



「学び合う」児童の姿

6年 算数「速さ」

420kmを10時間で走ったトラックと48kmを3時間で走ったランナーでは、どちらがどれだけ速いか。



自分の考えを簡潔に板書し、みんなに説明する。



話し合った考えを分かり易く板書し発表する。



友だちの説明を自分の考えと比べながら聞く。



先生と一緒に意見を出し合い話し合う。

4年 社会「水道の水はどこから」

水道施設見学の内容を班毎に整理し確認し合おう。



見学で分かったことや感想をグループで発表。



みんなの報告を整理して情報を取捨選択する。



整理したことを班毎に発表し合い確認し合う。



確認し合った内容を新聞としてまとめ発表。

学び合う学習には、日頃から、語彙力や話す力を育てることが大切

語彙力は、毎日の親子読書で蓄えましょう。
 話す力は、聞き上手が話し上手を作ります。
 子供の話をじっくりと聞いてあげましょう。

ご家庭でのご支援もよろしくお願いいたします。